行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ダイヘン六甲事業所)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会　委員　菅哲男
接合科学研究所　客員教授

2018 年度のインバウンド CIS (カップリングインターンシップ)が、9 月 16 日—9 月 29 日の期間にダイヘン六甲事業所(神戸市)で開催されました。大阪大学の工学研究科 3 名、基礎工学研究科 1 名、KMUTT(モンクッド王トンブリ工科大学)の人文科学研究科 1 名、経営学研究科 1 名、工学研究科 2 名の計 8 名の学生が参加しました。接合科学研究所の橋本特任講師と寺西特任助教が、CIS の全工程を引率しました。

現地では 2 日間(9 月 17 日—18 日)の事前研修を阪大・接合研で行い、日本企業の経営理念やコミュニケ—ションの研修、現地実習企業の紹介、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマの検討などを行いました。19 日から 5 日間(休日を除く)の企業実習に臨みました。実習先のダイヘン六甲事業所で、会社の紹介(方針、組織、業務)、安全と品質の講習などを受けると共に、工場見学(ロボットの製造他)、工場実習(品質検査、ロボット操作、マグ溶接)やダイヘン溶接機事業部の幹部やスタッフとの面談を行いました。9 月 25 日には、変圧器を製造している南電器製作所(香川県多度津郡、ダイヘンの子会社)の見学もしました。又、実習テーマの「グローバル人材育成における課題と対策」について、学生は連日一生懸命に取り組みました。

最終日の 9 月 28 日に、阪大・接合研で学生はテーマの検討結果を発表しました(写真)。最終報告会には、ダイヘンの上山執行役員、山口部長、前田部長、KMUTT の Anak 学長補佐、阪大の近藤教授、西川教授、馬越教授、橋本特任講師、寺西特任助教、菅客員教授ら計 24 名が参加しました。学生の提案に関して活発な議論が行われましたが、企業からは「人材育成に関する有用な提案が出ている」とのコメントがありました。企業にとっても、CIS は社員の活性化に大いに役立っているとのことでした。

学生は、ものづくり企業の現場を体験すると共に、実習テーマを通して、グローバル人材の意味、コミュニケーションの重要性などを習得しており、大変意味のある活動でした。